

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立有田中部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>■県共通の重点取組について「十分達成できている」の評価が多く、全体的に見ても「概ね達成」以上の評価であり一定の成果は上げられている。しかし、肯定的な意見は成果指標を大きく上回っていたが、「十分達成」の回答の割合は、その半数であったことから、今後は更に児童や保護者との意思疎通・連携を図りながら指導改善に生かしていきたい。</p> <p>■基本的な生活習慣の徹底を図ることで、落ち着いた生活習慣、学力向上を狙うとともに、家庭へ積極的にその啓発を図り、徹底を図っていく。</p>
2 学校教育目標	自ら気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮しながら課題解決に向かう児童の育成
3 本年度の重点目標	<p>①自ら考える力を培い、主体的で創造性豊かな児童を育て、学力向上を図る。</p> <p>②自然や人間に愛情をもち、やさしく思いやりのある児童を育て、心の教育を充実する。</p> <p>③健康や安全に留意し、強い心とたくましい体の児童を育てる。</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上になることを目指す。	・校内研修又は職員会議の中で、学校課題と重点取組を協議・共有し、それに基づいたマイプランを各自作成し、取組の推進を図る。	B	・学校課題と重点取組を共有し、それらの解決に向けた手立てを採るための校内研修を行う中で、マイプランを設定した。マイプランの実施状況を自己評価し、今後に生かしていくことを共通理解した。	B	・職員アンケートにより、学校全体としての共通実践事項の成果指標を達成した教師は85%、マイプランについては70%であった。今後、校内研究の取組と学力向上の取組との相互補完性及び共通実践事項の成果指標とマイプランの成果指標との整合性を一層密にしていかなければならない。	B	・目標達成度が数値目標に近い所まで行ったことは評価できる。	学力向上対策コーディネーター
	○問題文を読み解く力を高める授業実践	○児童アンケートにおいて肯定的に回答する児童の割合を70%以上にするを目標とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業設計と授業研究会を行う。その際、自己評価や他者評価ができるようにチェックシートを活用する。	C	・問題文を読み解く力を高めるための手立てとしての構想を各学年ごとに練り合っている段階である。朝のスキルタイム、合科的な課題の提示などを少しずつ実践を行っている段階である。	B	・児童アンケートより「問題の大事どころに印を付けたり、線を引いたりしながら問題をといていた」と肯定的な回答をした児童は79%であり目標を達成できた。問題を読み解く力を高める手立てが定着してきたと考えられる。	A	・取り組んだことがしっかりと結果につながっていきやすい。	研究主任・研究副主任
	○友達と考えを練り合い、高め合うことができる授業実践	○児童アンケート「授業の中で友達と考えを練り合い、高め合うことができた」と回答する児童の割合を70%以上にするを目標とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業設計と授業研究会を行う。その際、自己評価や他者評価ができるようにチェックシートを活用する。	・7月に第1回目の研究授業を行い、「授業の中で友達と考えを練り合う」場面を設定した授業を提案した。児童の意識の高まりは感じられたが、表現方法や課題の提示、まとめ方に課題が残った。	B		A	・児童アンケートより「授業の中で友達と話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりした」と肯定的な回答をした児童は79%であり目標を達成できた。全学年が授業研究会を行うことで、授業力向上につながっていると考えられる。	A	・中間評価での問題点の洗い出しと、その改善策がうまくいった結果だと思う。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケート「学校が楽しいですか」で、肯定的回答の割合を80%以上にするを目標とする。 ○保護者アンケート「お父さんは、『学校が楽しい』と感じていると思いますか」で、肯定的回答の割合を90%以上にするを目標とする。	・児童の実態把握のためのアンケートを定期的に実施し、児童理解に努める。 ・児童の実態に応じた道徳の単元構成や人権・同和教育の計画的な運用を図る。	B	・各学級で毎月「〇月の心アンケート」を実施し、児童の心の実態把握に努めると共に問題の見える児童に対して指導助言を行っている。必要に応じて保護者と連絡を取っている。 ・コロナ差別予防に関する道徳授業、ふれあい道徳参観授業等全校での取り組みを行い、発信している。	B	・全児童による人権委員会はコロナ対策のため中止したが、学級単位での取り組みを奨励し「いじめに関する標語」を募集した。いじめ防止に対する意識を高めることができた。 ・「〇月の心アンケート」は毎月欠かさず実施した。アンケートの回収、児童への聞き取り等は学級によりややばらつきが見られ課題として残った。	B	・子供とのコミュニケーションだけでは計れない。授業参観等で直接見て確認することができなかった点が残念。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施していると思いますか」で、肯定的回答の割合を75%以上にするを目標とする。	・いじめアンケートや「月のころ」を有効に活用し、早期発見と対応を継続して行う。 ・職員間で情報を共有し、チームによる対応を心掛ける。	B	・アンケートや「月のころ」で把握した内容を元に、担任による個別の聞き取りや個人懇談での確認を行い、早期発見・対応に努めている。 ・その都度ケース会議を開き、SC・SSWの意見も参考にしながらチームで対応している。	B	・保護者アンケートより「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施している」という肯定的な回答をした割合が90%であり、目標を上回ることができた。 ・生活アンケートで集まる児童については、各担任が把握し、見守りと支援を継続している。	B	・コロナ禍で、授業参観がほとんどできなかったことが残念だった。自分の子供だけではなく、クラス全体の雰囲気なども直接見たかった。	人権・同和教育担当 教育相談担当
	◎児童生徒が目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動の実践	◎学期に1度は児童の目標設定や振り返りの記録を行いキャリアパスポートに残す。 ○保護者アンケート「お父さんは、行事等に意欲的に取り組んでいたと思いますか」で肯定的回答の割合を70%以上とする。	・児童が目標をもって学校生活や行事に臨むことができるように事前指導を充実させる。また、行事後には、その振り返りを行い目標実現への努力を賞賛していく。	・キャリアパスポートに残すものとして、学年始めと終わり（教務で全校統一のもの作成）+3枚程度（学年で統一）とした。1年生のファイルを作成し配布する予定である。 ・行事が制限される中で児童にどのように達成感や充実感を味わわせるか検討を続けている。	C		B	・保護者アンケートより「行事に意欲的に取り組んでみたいか。」の肯定的な回答の割合は95%、「とても思う」の割合が42%と高いものであった。今後更に目標をもってその達成感を味わうことができる取組を行ってほしい。	B	・先生方の工夫や情熱のおかげで、子供たちは前向きに取り組んでいる印象である。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上にするをめざす。	・学活や家庭科の授業を通して望ましい生活習慣の大切さを理解させる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の動行を児童と保護者に引き続き啓発する。	C	・スポーツテストの結果からふり返りさせ、運動習慣について考える時間を設け、生活習慣とも関わっていることを指導した。 ・生活習慣については、必要に応じて学級通信で呼びかけているが、授業等その大切さを意識するような取組を行ってほしい。	B	・全クラスにおいて、学活や家庭科の授業を栄養教諭とT/Tで実施し、望ましい生活習慣の大切さを理解させた。「健康に食事は大切と思う」や「思う児童」は、4月～93%～12月～100%となり、食への意識の向上が見られた。	A	・100%はすごいと思う。取組の成果が表れている。	保健主事 保体部
	○望ましい食習慣の育成	○朝食の喫食率を90%以上にするを目標とする。	・保健体育や食育の授業を充実し、健康の大切さを改めて気付かせる。 ・お便り等を通して保護者へ啓発する。	B	・朝食を必ず食べて登校する児童は85%である。喫食率が低い学年では、学級活動や給食時間に指導を行ったり、個別に声かけを行ったりしている。また、食育たより等を通して家庭への啓発を行っている。	B	・「登校日に朝食を必ず食べる児童」は、4月～76%～12月～85%と増加しているが、朝食の内容には課題がある。 ・放送やリモート集会等を活用した指導を行ったことで給食の残食ゼロの日も多くなり、食への感謝の心の育成につながっている。	B	・保護者の協力が不可欠である。保護者への啓発を行い、保護者と学校が協力しながら、一緒に協力していけるといいと思う。	栄養教諭 保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・繁忙期とそうではない時期を明確にし、年間を通し、軽重を付けた働き方を行う。	C	・運動会や学校訪問等の行事があり、時間外勤務時間の上限を超える職員が見られた。今後、行事が集中しないよう業務改善を図る。 ・夏季休業中に学校閉庁日を3日設定し、研修等の時間設定を工夫したりと、休暇を取得しやすい環境を設定した。	B	・時間外勤務時間は、昨年度末は、一人当たりの平均が39時間であったが、4月から9月までの一人当たりの平均が38時間。4月から2月までが37時間であり、減少してきていることがわかる。	B	・減少していることは評価できる。保護者にも呼びかけることを考えられるのではないかと。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○新型コロナウイルス感染防止対策を十分講じた上で、地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ○保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上にするを目標とする。	・焼き物体験を中心に、他の体験活動に応じた人材発掘と連携を図る。 ・学校ホームページを効果的に活用し、学校の重点目標や取組等について知らせる機会を設ける。	B	・全児童が焼き物制作を体験した。その際、地域人材に特別非常勤として来校いただき、指導を仰いだ。 ・学校だけでなく、学校ホームページのQRコードを掲載することで、保護者が手軽にホームページを閲覧できるように活用につなげた。	B	・保護者アンケートより「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的な回答の割合は84%であり、目標を達成することができた。授業参観の中止など今年度もコロナ禍のため地域連携が難しくなったが、オンデマンド参観などの新たに情報発信する方法を取り入れることができた。	B	・コロナ禍で思うようにいかなかったと思う。PTAとしても、PTA行事で学校と地域を積極的につなげる活動をしていきたい。	教頭 主幹教諭
○教職員の資質向上 (若手教員の育成)	○若手教員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答の割合を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の肯定的回答の割合を80%以上にするを目標とする。	・若手同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、授業づくりや学級経営に関して気軽に相談できる研修会を行う。 ・学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境づくりを行う。	B	・学年会で学年主任が中心となり指導に係る情報交換を行い、若手の指導力向上を図っている。 ・若手の課題に対応すべく若手研修会を行う。 ・今後、学年主任会を定期的に開いて、授業作りに関する情報交換を行い、それを学年に還元することで若手の授業力向上につなげたい。	A	・児童アンケートで「授業が楽しく分かりやすい」と肯定的な回答をしている児童は89%、保護者アンケートで「授業づくりを工夫している」に肯定的な回答をしている保護者は96%であり、研修が授業改善につながっていると考えられる。	B	・授業参観が無いことによって、実際に見て確認することができなかった。	主幹教諭

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>今年度の重点取組については、概ね達成することができたと見える。課題も見えてきたので、次年度は課題解決のために次のようなことに取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で、保護者や地域との連携をとることが難しかった。同時に、保護者や地域とつながることの重要性を感じた1年間でもあった。次年度は、授業参観や懇談会の機会を使いながら学校の教育方針や取組を伝え、保護者や地域との連携を強化する。</li> <li>・学力向上に係り、基礎基本の徹底を図るとともに、読解力を高めるための授業改善に取り組む。</li> <li>・地域人材を活用した体験活動を推進していき、コミュニティ・スクールを充実させていく。</li> </ul>
--------------------	---